愛 媛 県

果　試　ニュース

第20号　　平成16年3月

愛媛果試第28号着果状況

梅が咲き、鶯の澄んだ音色を耳にするようになりました。季節はいよいよ本格的な春を迎えましたが、生産者の皆様方には、新しい年の生産対策に何かとお忙しいことと思います。

さて、今年の正月の話ですが、知人から頂いた年賀状に「生産調整もした。マルチも敷いた。それでなおかつこのみかん価格。厳しいです。」と書かれてありました。

かつて温州みかんは、生産過剰だから価格が低落する、そのため伐採・抜根・高接ぎ等による品種転換や摘果推進による生産量の調整を行って価格の安定を図るべく努力を続けてきました。しかし近年、どうも消費・流通構造が大きく様変わりしている状況にあるようです。消費者の目先の変化がますます早くなるとともに、大型小売店の力が一段と強くなり、さらにはインターネットの普及に伴う情報氾濫の社会の中、単に量の調整だけでは価格のコントロールが難しい時代となったようです。消費者の求めにあった商材の開発や安全性を前面に打ち出した商品の売り込み、そして産直市やインターネット等を利用した直販の取り組み等々、これまでの大量生産・大量一括市場出荷とはかなり異なった多彩な戦略を展開していくことが不可欠となりました。

果樹試験場においてもこうした戦略に少しでも役に立てるよう、特産品種の開発はもちろん、環境に配慮した栽培技術や品質向上技術の開発等に一層の努力を続けているところです。

さて今回の果試ニュースは「愛媛果試第28号について」「モモの高糖度果実生産について」「カンキツ園におけるチャコウラナメクジの生態と防除について」の３題を掲載しました。

特に愛媛果試第28号は年末贈答用に適した特産品種になれるものと期待していますので、次々と登場する新品種と併せ、其々の産地での販売戦略を立てた上で導入が進むことを願っております。

場　長　世良親臣